

第5学年 道徳科(人権)学習指導案

- 1 主題 命の大切さ
- 2 主題設定の理由(省略)
- 3 ねらい

命の大切さを理解し、互いの人権が守られる社会をめざして行動しようとする態度を育てる。

- 4 指導計画

【 】 普遍的な学習のテーマ [] 個人人権課題名

主題に関わる日々の活動

あいさつ活動

おはよう、ありがとう、ごめんなさいの言葉を伝え合うことで円滑な人間関係を築けるようにする。

朝のスピーチ

自分のめあての振り返りを行い、これからの行動について考え、学校生活に生かしていけるようにする。

給食の時間

地域の生産者や旬の食材などについて知ることで、食への興味関心を高める。

大願成就ツルギスタ

生活目標の達成人数を確認することで、落ち着いて学校生活を送ろうとする意欲を高める。

なかよし班活動

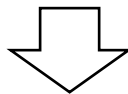
異学年集団での活動を通して、他学年と協力したり、下学年を支えたりするなど、高学年としての関わりができるようにする。

主題に関わる人権学習

これまでの学習

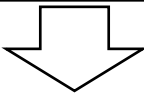
○総合的な学習の時間
「つるぎ町について調べよう」
【地域文化への感謝】10 時間

○道徳科
「いのちをいただく」(講談社)
【生命への畏敬】2 時間



現在の学習

○道徳科
「山の粥」(ひかり)
【誇りうる生き方・命の大切さ】
〔同和問題〕3時間(本時 3/3)



これからの学習

○総合的な学習の時間
「もう一つの日本の歴史」
(エルくらぶ)
〔同和問題〕1 時間
「資料から考えよう」
〔災害時における人権問題・HIV 感染者・ハンセン症患者等〕
「人権が大切にされるまちづくり」をめざして(ひかり)
【生命・人権の尊重】3 時間

主題と教科等との関連

○総合的な学習の時間
「つるぎ町に秘められた食(命)と職にまつわる情報を集め、わたしたちにしか描けない物語を完成させよう」

【地域文化への感謝】

○社会科
「米作りのさかんな地域」
「これからの食料生産」

○家庭科
「食べて元気」
【食への感謝と持続可能性】
○社会科
「森林と共に生きる」
「自然災害と共に生きる」
【自然への畏敬】

○理科
「メダカのたんじょう」
「花から実へ」
「ヒトのたんじょう」
【生命の連続性】

○国語科
「地域のみりよくを伝えよう」
「和の文化を受けつぐ」
「いにしえの人のえがく世界」
「資料を見て考えたことを話そう」 【地域文化への理解】

5 本時の学習

- (1) 目標 厳しい差別の中でも、人間としての誇りや優しさをもって、農民を救おうとする村の人たちの生き方を通して、差別の解消をめざして行動しようとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値

C-(13)公正、公平、社会正義

- (2) 普遍的な学習のテーマ 誇りうる生き方・命の大切さ
 個別人権課題名 同和問題

(3) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	○ これまでに学習したことを想起させ、本時の方向付けを行う。
農民を助けた村の人たちの姿から命の大切さについて学ぶ。	
2 飢餓に苦しむ農民を助けるかどうかについて話し合う。	○ 「日名倉山の村人会議」を設定し、自分事として考えられるようにする。 ○ 差別を繰り返す農民の生き方から、差別することの愚かさ気付かせる。
3 藤べえじいさんや村の人たちの生き方について話し合う。	○ どうして月のない深夜に来るように伝えたのかについて考えさせる。 ○ 差別されても、相手のかけがえのない命を大切にする生き方をしてきたことに気付かせる。 ①
4 自分たちの生活を振り返る。	○ いじめや差別がかかけがえのない命を奪うこともあることに気付かせる。 ○ 村人の生き方から、自分の生き方について考え、いじめや差別をしない、させないという意欲を高める。 ②

(4) 評価

- ・ 村の人たちが厳しい差別の中にあっても、人間として命を大切に生き抜いてきたことを理解することができたか。 【知識的側面】①
- ・ 差別の解消をめざして行動しようとする意欲を高めることができたか。 【価値的・態度的側面】②